

僕は日々ひたすら絵を描きつづけている。
呼吸し、食べ、排泄し、眠るのと同じようにだ。

線は僕の肉体の延長としてうねり、
色は僕の精神の明滅を激烈に映し出す。
それは世界との直感的な交錯によって瞬発的に繰り出される。
描きあげた末に僕は疲れ果てて倒れ込む。
そのとき絵は、僕と不可分な、一人の人間のナマの姿だ。
しかし決して個人的な表現として完結はしない。
人は抗うことのできない天変地異の世界を生き抜いているが、
いかに時空的に隔たつていようとも、
その波動は今ここに伝わってくる。
僕にできることといえば、その波を感受し、祈ることしかない。
だから僕の絵の中に彫り出される図像は、
祈らずにいられない根源的衝動が形づくる現実だ。
どんな状況であれ、人はこの世界を必要としている。
僕も日々ひたすら世界を感じつづけている。
僕自身と、そして誰かの生のために。

切実に生まれつづける絵々は、
唸り声と掻き鳴らされたギターのようにまにまに
うっとり身を委ねている。
「私たちの人生っていったいなんだらう」
これほどまでに雑音のないドキュメンタリーを
見たことがない。

内田也哉子（文筆家）

かいじゅう

画家 西村一成 Nishimura Issei

1978年生まれ、愛知県在住。西村一成は甥っ子や姪っ子から「かいじゅう」と呼ばれている。独学で絵を描き始めたのは20歳の頃。自宅でときに唸り声をあげながら、キャンパスに絵の具を塗りたくり、独白のごとく日々絵を描く。シェル美術賞、FACE損保ジャパン日本興亜美術賞ほか多数入賞・入選。

【画家・西村一成 一年の記録】

初めて会ったとき、一成さんは「午前中なら調子がいいから、大丈夫かもしれない」と言った。夕方は苦手らしい。不安になるという。だから最初は「午前中の1時間くらいだけ撮影してみましようか」そんな約束をして別れた。
あれから一年、僕（伊勢 朋矢）は西村家に通い続けた。午前中1時間だけの撮影は、2時間3時間……と伸びていった。カメラはただただ回り続け、西村一成の日常は1本の映画になった。映画のタイトルは一成さんの甥っ子がつけたあだ名にした。

『かいじゅう』 監督・撮影 伊勢 朋矢

（映画『日日芸術』、Eテレ『no art, no life』）

出演 | 西村 一成

音楽 | ロケット・マツ（バスカルス）

撮影応援 | 水野 宏重 整音 | 永冢 康弘 音響効果 | 細見 浩三 タビングスタジオ | 小田 崇
カラーグレーディング | 山口 登 オンラインエディター | 森泉 洋平 監督助手 | 植木 咲楽
制作デスク | 加藤 明香 広報 | 唯野 浩平 宣伝アート | 逸藤 郁美 デザイン | 森岡 寛貴
プロデューサー | 牧野 望 伊勢 真一 編集 | 太田 一生 監督・撮影 | 伊勢 朋矢

制作・配給 | Planetafilm

[問合せ] Planetafilm Tel. 03-6455-3366

Mail. space@planetafilm.co.jp

https://planetafilm.co.jp



上映情報

6/29土~7/12金 新宿 K's cinemaにて公開

全国共通 税 1,400円
特別前売券 税 1,400円
当日 鑑賞券 1,800円
一般(税込) 1,500円
大学・専門(税込) 1,200円
シニア(税込) 1,000円
障がい者(税込)

新宿 K's cinema
Tel. 03(3352)2471
www.ks-cinema.com
各回入替え・全席指定



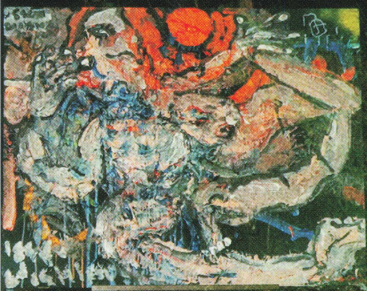
新宿駅東口階段下
甲州街道沿道ドコモショップ
上丸
大塚家具

伊勢 朋矢 監督作品

かいじゅう

ススムトコロニエガアツテ
サガルトコロニモエガアツテ
ドコヘニゲテモエニオワレ
ボクハタブン
エニクイツブサレルダロウ

画家 西村一成



映画『かいじゅう』
2024年 / ドキュメンタリー / カラー / 101分
制作・配給 株式会社etafilm 監督 伊勢朋矢